



2024.6.20 第141号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



寺島 謙 先生

最近特に、私の心に強く思  
い浮かぶ聖書の箇所がありま  
す。それは創世記第35章27〜  
28節の中にある御言葉です。  
「イサクの生涯は百八十年で  
あった。イサクは息を引き取  
り、高齢のうちに満ち足りて  
死に、先祖の列に加えられた」  
(28節)。聖書は、百八十年の  
生涯を終えたイサクの死につ  
いて伝えているのですが、イ  
サクが高齢のうちに満ち足り  
て死んだと伝えていきます。

高齢化社会と言われるよう

## 「安らかな死」を備えてくださる主

### 創世記第35章27〜28節

四国教区・松山城東教会牧師

寺島 謙

になって久しいですが、しか  
し、死は高齢者だけの問題で  
はありません。一昨年の秋と  
今年の4月に私は、小学生時  
代の同級生を続けて失う経験  
を致しました。二人とも私と  
同じ50代前半でした。改めて  
人間はいつ死ぬのか誰にも分  
からない、そういう命に生か  
されていることを思わされま  
した。ですけれども、今日の  
聖書を通して示されている大  
切なことがあります。それは  
たとえ命が短かろうが、長か  
ろうが、イサクのように満ち  
足りて、安らかに自らの死を  
迎えることが出来たら、その  
人にとってどんなに幸いな人  
生であるかということ。す  
まして、どうすれば我々もま  
たイサクのように自分に与え

られた命を生き、満ち足りて  
死ぬことが出来るかというこ  
とです。

イサクは、ご承知の通りイ  
スラエルの礎を築いた族長の  
一人でありましたが、その生  
涯は決して順風満帆ではな  
く、むしろ波乱に満ちた試練  
と苦難の連続のような歩みで  
ありました。飢饉があつてイ  
サクがゲラルに滞在していた  
とき、異民族から井戸を何度  
も埋められるという仕打ちを  
受け、家族もろとも命の危険  
に晒されたことがあります。  
晩年には、長男エサウと  
次男のヤコブとの兄弟同士の  
争いが生じ、イサク自身も父  
親として大変苦しみ傷つきま  
した。つまり、イサクが満ち  
足りて死ぬことが出来たの

は、彼自身の努力や精進、人間の熱心によることではなかったということ。イサクを選び、イサクと共にその人生をいかなる時も歩み続けて下さった神御自身が導かれたのです。ですから、「満ち足りて死んだ」というのは、単にイサクが長寿を全うしたというだけではありません。神がイサクの死を含めた人生の全部を祝福されたということです。そして、先祖の列に神がイサクを加えられたのです。これはイサクが神の御手の中に完全に受け入れられたことを意味しますが、これが、イサクの生涯にとって何よりも大きな恵みであり救いであつたと聖書は証言しているのです。

伝道者の働き、生涯もまたイサクの生涯と同じように不完全で不十分な歩みであるかもしれない。しかし神がイサクを最後の最後までお用いになられたように、福音伝道のために私達をも用いて下さ

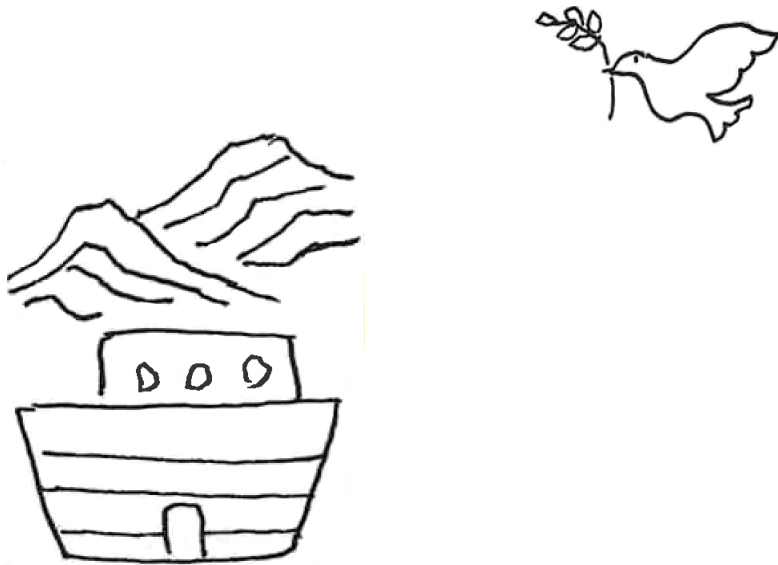
るのです。そして私達にも満ち足りて死ぬことの出来る救いの道を最後まで歩ませて下さるのです。

主イエス・キリストはこう約束されました。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言つたであらうか。行ってあなたがたのため

に場所を用意したら、戻つて来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる」(ヨハネによる福音書14章1〜3節)。

教団年金制度が、隠退教師の方々とそのご家族のご生活が支えられるだけでなく、主によつて、「満ち足りて死ぬ」その時を迎えられるまで、豊かに用いられることを祈っています。

(てらしま けん)



「隠退教師を支える運動・1000円献金」

## 「はずすな！ワニのあじ」 ～はじめての総会アピール～

京都教区推進員 谷本 聰子

4年前でしたか、教区議長から突然、年金局理事と隠退教師を支える運動推進員就任の打診がありました。前任者の奮闘ぶりを垣間見ていた私は一瞬たじろぎましたが、何とかなるかと、きわめて安易にお受けしました。

フルタイムで仕事をしているため、会議にはほとんどzoom参加となりましたが、教団年金制度について学び、他教区の方々の奮闘もお聞きする中で、自分にできる活動は何かと模索してきました。ただ世の中はコロナ真っ最中であり、常置委員会への陪席



谷本 聰子 さん

も各集会でのアピールもできないまま時が過ぎました。書面による報告以外に取り組んだのは、隠退教師1000円献金のチラシを作製したこと、暑中見舞に手描きイラストを添えて全教会・伝道所へ送ったことくらいでしょうか。何をしても反応が乏しいし、内心さみしいなあと感じる日々でもありました。今年ようやく教区総会でのアピールがかないました。2分という限られた時間でどう

効果的なアピールができるか、考えた末に思い付いたのが、このワードです。「ワニの口」が開き続ければアゴが外れる。そうなったら年金制度は崩壊する。それをさせないために私たちは謝恩日献金と1000円献金に取り組んで、結果的には年金財政を黒字化している事を訴えました。あわせて日本の年金制度の貧弱さとこの制度が果たす役割も語りましたが、微笑も交えてうなずいてくださり、目と目を合わす対話の大切さを実感しました。又総会には京都南部地区女性部の委員さんも参加していて、今度は地区連絡会でもぜひ、と声をかけていただき嬉しかったです。

微力な私ですが、何か力が与えられたような気がしました。おりしもペンテコステ。聖霊の息吹が与えられますように！

（たにもと としこ／今津教会員）

「隠退教師を支える運動」  
推進委員会  
事務局からのお知らせ

◎事務局員の交代  
9年余り事務局員としてお働きくださいました若島千絵さんが、この6月末で退職することになりました。今までの力強いお働きと皆様のお支えを感謝いたします。なお、後任には森永美恵子さん（聖ヶ丘教会）が着任しました。若島さん同様、どうぞよろしくお願いたします。

◎推進員の訃報  
東京教区南支区推進員の沼野直美さん（田園調布教会）が5月14日に召天されました。お働きを感謝しつつ主にある平安をお祈りいたします。

（事務局長・山田昌人）

# 業務室より

## — 年金を受けている方へ — 年金給付のお知らせ

7月の定例給付のご案内をします。

**送金内容** 2024年度第1期分給付  
(2024年4・5・6月分)

**送金日** 2024年7月10日(水)  
期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

**次回送金** 2024年10月10日(木)

連絡先・年金振込先の変更は、できる限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れかで、年金局までお知らせください。

☆ 2023年度年金局事業・決算報告がまとまりました。以下、概要を感謝をもってご報告いたします。2023年度は681名の隠退教師・ご遺族の方(年度末現在)に総額4億3212万円の年金を給付いたしました。現役教師による掛金収入は3億960万円で、その差額1億2251万円は、「謝恩日献金」「隠退教師を支える運動・100円献金」、資産運用益等で補われています。「謝恩日献金」の総額は4039万円で958教会から献げられました。また「隠退教師を支える運動・100円献金」は6134万円が877教会から献げられました。(詳細は同封の「教団新報・年金特集79号」をご覧ください。)  
世の中の感染予防に対する制限はかなり緩和されていますが、4年前の教会の活動に戻ることは困難な現状です。その中であっても全国の教会・伝道所が祈りと宝をお献げ続けてくださっていることは、教団退職年金制度の大きな支えとなっております。また、資産運用面にお

いては、投資環境の好転により目標額を大きく上回る5817万円を計上することができ、保有有価証券の評価益は過去最高の5億1303万円となりました。「支える運動」からの多額な繰入金、教区協力金、教団からの繰入金、二口の大口の匿名献金を含めた特別献金などにより、2023年度末の収支差額の4340万円を繰り入れた退職年金積立金は45億2759万円となりました。(詳細は、秋に発行されます「教団新報・年金特集80号」に掲載いたします。)

☆この春に隠退され、教団年金受給者となられた教師の方は、現時点で21名、平均年齢は74歳です。再隠退された教師の方は6名です。

☆現況届のご提出をありがとうございました。ハガキに添えられた近況や労いの言葉に、職員一同励まされております。「緊急連絡先」のご登録へのご理解とご協力も感謝です。いろいろな場面で役立たせていただいておりますので、未登録の方、変更がある方はご連絡をよろしくお願いいたします。

☆1月に発生した能登半島地震の被災地のお近くにお住まいの方は、復興の遅れに加え、6ヶ月が過ぎた先日も大きな揺れが起きたりと気の休まらない毎日をお過ごしのこととお見舞い申し上げます。気候の変動により、各地を襲う豪雨や強風などの被害、既に猛暑の気配も感じています。苦難の中におられるお一人おひとりに主が寄り添い、健康が支えられ、穏やかな日々を過ごされますようにとお祈りしております。(村山めぐみ)

日本基督教団年金局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

Tel: 03(3202)2080 / Fax: 03(3202)2081

mail:nenkin@uccj.org

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

Tel: 03(3232)8005 / Fax: 03(3202)2081

mail:sasae100@uccj.org